

リスコミ

※リスコミ(リスクコミュニケーション)健康への影響についての情報を共有し専門家と意見交換していくこと

6/1 第1回いいたて健康リスクコミュニケーション推進委員会開催

これから放射線についての情報提供や勉強会をどのように進めていくかを話し合う「いいたて健康リスクコミュニケーション推進委員会」が飯野出張所で開催されました。これは、村が策定した「いいたてまでいな復興計画」の基本方針①「生命(いのち)をまもる」を進めていくための施策の一つとして取り組まれるものです。

初回となるこの日は、はじめに16人の委員に委嘱状の交付が行われました。続くあいさつの後に会長、副会長の選出があり、会長に飯館中学校スクールカウンセラーの海野和夫さん、副会長に村民代表で参加した庄司智美さんが選ばれました。



▲委嘱状を受け取る海野会長

委嘱を受けた委員からは、「放射線については専門家によって全く説明が違うため、どう判断したらいいかわからない。この委員会を通じて、少しでも放射線について詳しくなりたい」「若い人や年配の人にも分かりやすいように、簡単な例えや漫画で伝えられたら良いのではないか」といった意見が出されました。

これから推進委員会は、教育リスコミ部会、一般リスコミ部会、編集部会の3つの事業部会に分かれ、研修会や各集会等でのリスクコミュニケーションの実施と、そのようすを広報紙やICTタブレット端末などで伝える活動を行います。

6/17 第1回子どもの遊びと心のケア事業開催

リスクコミュニケーションの一環として、子どもの心身の健やかな成長発達と子育ての不安解消の場を提供するために、村健康福祉課が昨年からの協力をいただいているCCCと、飯野学習センターを会場に「子どもの遊びと心のケア事業」を開催しました。

この日参加したのは12組の親子(保護者15人・子ども26人)。小児科や精神科医による個別相談会では、育児や子どもの健康について不安のある保護者が、熱心に相談していました。また、参加した保護者と小児科医による避難中の子育てなどについての座談会も実施。座談会では、避難生活で見られるようになった子どもの気になるようすや学校での友人関係などについて、お互いのようすや考えなどが話し合われました。



▲子どもたちは好きな遊びに夢中

参加者からは、「避難先の子育てサロンなどは知らない人ばかりで参加しにくい。こうやって子どもをゆっくり遊ばせることができたので参加してよかった」「育児の悩みなど、ほかの参加者の話も聞くことができて参考になった」といった感想がありました。そのほかにも、遠くへ出かけるのではなく、今回のように近くで安心して遊ばせることができる子どもの遊び場や、丁寧に話を聞いてくれる場を定期的に作ってほしいといった声が聞かれました。

今後「子どもの遊びと心のケア事業」は継続して開催される予定です。



よ座相
う談談
す会の
の・

CCCとは

Cocoro Care for Children
東日本大震災以降子どもたちの「心のケア」を行うために設立。メンバーには小児科や精神科など専門の医師がいます。

平成24年度総合健診の集団健診が終了しました

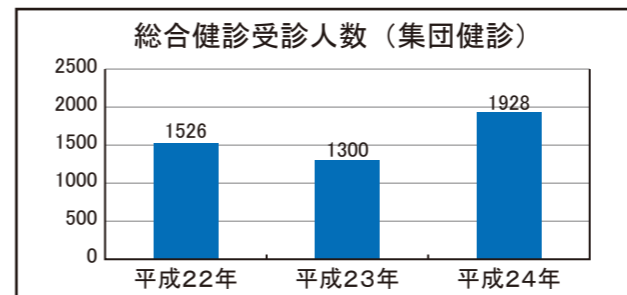
5月24日から6月3日までの11日間で実施した集団健診の受診人数は1,928人でした。平成23年度以降は、県民健康管理調査を含む健診内容であり、健診対象年齢の引き下げや社保加入者も対象となるなど、従来の受診人数との単純比較はできませんが、去年より628人増加しています。

また、今回の集団健診は、福島県立医科大学および国立病院機構災害医療センターの医師の協力による「よろず健康相談」を実施し、140人(受診者の約1割)が相談を受けました。相談の内容からは、避難による心身の健康面での不安や、放射線に対する不安が増している状況がうかがえました。

今後、村では7月に健診結果説明会を開催し、健診結果から生活習慣の振り返りと改善を考えるとともに、放射線による不安や生活習慣病などの相談に応じるため、医師の個別相談を併せて行う予定です。

また、県内に避難されている方で、集団健診を受診しなかった方及び女性のがん検診対象者へは、7月以降に実施する福島県内医療機関での健診のご案内をします。県外へ避難されている方へは、8月以降に県外で受診する健診のご案内をします。

原発災害に負けない健康管理のための大切な健診になりますので、毎年必ず健康診断を受けましょう。



▲総合健診のようす(飯野出張所)

よろず健康相談実施状況(※会場の都合により、規模の大きい健診会場で実施)

相談会を実施した会場の健診受診人数	相談者数	相談内訳		
		身体関連	放射線関連	心身関連
1,383人	140人	86件	40件	24件

※相談内容が複数の場合は、各内容を1件としてカウントしています。

放射線に関する健康相談の他、一般的な医療相談、暮らしに関する相談も多い状況でした。

問 健康福祉課 (024)562-4224

医師の家庭訪問でこころの相談をしています

昨年の11月からこころの相談のため、群馬県高崎市の心療内科の医師大野元彦先生(55歳)が、仮設住宅や借り上げ住宅を毎月訪問しています。

大野先生は、高崎市で「ポラン心療内科」を開業しています。奥様が福島市飯野町出身の保健師で、村が飯野町に役場機能を移転したことをきっかけに、飯館の方を支援したいと申し出て、毎月第3土曜日に、ご夫婦でボランティアに來ています。

避難生活により、村民の多くの方がストレスを抱えて生活をされていると思います。そのストレスに耐えきれなくなった時に、何らかの手当てが必要になってきます。

こころの病気は、困難な状況が重なることにより、風邪と同じように、誰にでも起こりうる病気です。早めの対応が、回復の時期を早めると言われています。訪問を希望される方は、お気軽に声をかけてください。大野先生ご夫妻と村の保健師と一緒に訪問します。